

きゅうろくじゅうはちぎんこうやぎしてん（きゅうわかやまぎんこうかしはらしてん）
旧六十八銀行八木支店（旧和歌山銀行橿原支店）の建築物の概要

沿革

六十八銀行八木支店の建築物は、昭和3年（1928年）3月に竣工した。

六十八銀行は旧郡山藩主柳沢保申が明治12年（1879年）に提唱し設立した国立銀行である。その後、昭和9年（1934年）になって、吉野銀行、八木銀行、御所銀行と六十八銀行は合併し、現在の南都銀行となった。この建物はその支店として使われていたが数年後支店は廃止された。昭和23年（1948年）3月、現在の所有者の坂本家に売却され、現在に至っている。

坂本家の所有となった直後から約3年間、映画館として貸されていた。その後、空き店舗となり、昭和38年（1963年）からは和歌山相互銀行橿原支店（後に改組により、和歌山銀行橿原支店）として使用されていたが、支店統合で橿原支店消滅となり、平成16年（2004年）から再び空き店舗となって現在に至っている。

設計者・舟橋俊一氏は明治43年（1910年）、名古屋高等工業学校（現名古屋工業大学）建築学科を卒業し、奈良県庁土木課建築係に工事補として採用された。明治45年（1912年）県庁を依願退職。その後、奈良県吉野郡川上村嘱託、京阪電車和歌山支店嘱託を歴任し、大正15年（1926年）、浅沼組に破格の待遇で嘱託に迎えられた。浅沼組はこの建築の工事を請け負ったが、出身は郡山の棟梁で柳沢家との関係があった。大正13年（1924年）奈良県最初の鉄筋コンクリート造の郡山小学校を完成させ、関東大震災あとの鉄筋コンクリート建築の流行の奈良における先鞭を付けた。こういった事情で、舟橋氏の技術に期待したのである。昭和4年（1929年）大阪市立桃山病院の巨額の工事を請け、舟橋氏をその工事所長に任命したと社史にある。

参考資料 （浅沼組100年） （南都銀行50年史）

建築物及び周辺環境

周辺環境は、橿原市の中心部で、国道165号線に面しているが周辺の木造の民家から少し後退して建っている関係で、控えめな印象の建築物である。今後、道路の整備が進めばこの建築物は前面に出て、目立つ存在となると思われる。

外観は、腰壁はルステカ仕上げで、上部は洗い出しで擬石風に仕上がっている。中央出入口上部には大きなアーチ形の窓を設け、その両側を二層分の高さの円柱で飾った、ルネッサンス風の様式である。全体として、バランスは良くとれた安定感のある建築である。竣工当時の写真と比べても、敷地周辺部の柵が失われている以外は、建築物としての改変の跡は見られない。

内部は大きな吹抜けを回廊が取り巻くという典型的な銀行営業室の形をしている。尚、映画館としてはこの吹抜けを利用して、営業室西壁にスクリーンを設置し、平床に椅子を置く形で営業された。

構造は鉄筋コンクリート造二階建で、内部は一部改造された跡があるが、概ね原形をとどめており、外観内観とも、保存状態は良好である。

一方、この建築物は奈良県南部に現存する一番古い鉄筋コンクリート造建築物であり、短期間であったがこの町唯一の映画館であったこともあり、市民には親しまれている。そういった意味でも貴重であり、登録文化財として相応しいものと考えられる。

空き店舗のため、一時、建物の存続が危ぶまれていたが、平成18年（2006年）レストランとしての活用を目指し準備中である。

（特定非営利活動法人 八木まちづくりネットワーク 理事長 好川 忠延）